



TITLE:

13. 溶液用ac calorimetry試料セル
の試作(名古屋大学工学部応用物理
学科,修士論文アブストラクト
(1985年度)追加)

AUTHOR(S):

松浦, 正英

CITATION:

松浦, 正英. 13. 溶液用ac calorimetry試料セルの試作(名古屋大学工学部応用物理学科,修士論文アブストラクト(1985年度)追加). 物性研究 1987, 47(4): 390-390

ISSUE DATE:

1987-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92359>

RIGHT:

ング曲線の測定を行なった。RHEED, AES, TDSによる観察から考えられる Ag 原子配列のモデルは, Si (111) 7×7 表面上でクラスターを形成せず, Ag 被覆率が $\frac{2}{3}$ ML で完成する Honey comb モデルであった。この Honey comb モデルをもとに行なった RHEED 強度の計算結果と 00-ロッドロックング曲線を比較することによって Si (111) $\sqrt{3} \times \sqrt{3}$ Ag 構造を検討した。その結果 Ag 原子が第 1 層の Si 原子より 0.34 \AA もぐり込んだ Honey comb モデルが最もよく測定結果と一致した。

13. 溶液用 ac calorimetry 試料セルの試作

松 浦 正 英

ac calorimetry は簡便で精度良く比熱の異常の測定が可能な測定法である。しかし比熱の絶対値測定が難しい場合が多い。特に溶液系や液晶の測定の場合, 測定条件が厳しい上に試料セルが必要になる。つまり容易に測定を行なえるセルの開発が重要である。そこで我々は光照射型装置用の絶対値測定が可能な試料セルを試作した。光照射型装置の場合, 直接加えられた熱を計算することは難しいので置換法による測定となる。我々が試みた絶対値測定法は, 測定条件を満たす領域内では試料の厚さと測定熱容量とは比例関係が成立するので, 標準試料と試料の比熱の相対値の厚さに対する傾きを比較することにより試料の比熱の絶対値を求める方法である。今後いくつかの改良を行なうことで精度良い測定が可能な測定法と考える。

14. チタン水素化物微粒子の成長と結晶構造

柳 田 明 彦

不活性ガスに水素ガスを加えた反応性ガス蒸発法によりチタン水素化物微粒子の作製を行なった。水素およびヘリウムの混合ガスの全圧を 50 Torr と一定にし蒸発温度 2000°C においては水素分圧 0.5 Torr 以上の条件で CaF_2 型構造の TiH_2 (r 相) 微粒子が成長し, その晶癖は高温相の bcc 構造を反映した十二面体であった。水素分圧 0.5 Torr 以下の条件では, hcp 構造の d 相と r 相の二相からなるチタン水素化物微粒子が成長した。さらに, この方法で作製した TiH_2 微粒子の真空中での加熱による水素脱離の実験およびチタン微粒子の水素雰囲気中での加熱による水素吸収の実験を行なった。その結果, 水素脱離においては fcc 構造から hcp